

小・中学校は令和8年度に学習指導要領が改訂されます

本資料は、令和7年9月～令和8年8月の間に文部科学省が公表した資料に基づき作成しています。ここに提示した項目は審議されているものの一部であり、その他に多岐にわたる内容が審議されています。また、本資料の記載内容については、今後変更の可能性あります。

「見える化」で深い学びへ！学習指導要領を構造化・表形式化

次期改訂の方向性：「多様な子供たちの『深い学び』を確かなものに」

- ・学習指導要領の更なる構造化
- ・柔軟な教育課程編成を可能とする仕組み

などが提起されています。

(教育課程部会 教育課程企画特別部会 (第12回) 配布資料より)

学習指導要領の構造化・表形式化とは

- ✓ 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」※の深まり、一体的育成を表形式で表し、可視化する。(令和8年8月 取りまとめ(案)より)
- ✓ 内容(「見方・考え方」、資質・能力の趣旨など)について、獲得した知識や技能などの「統合的な理解・総合的な発揮」を基にした構造化を図る。(令和8年8月 取りまとめ(案)より)
- ✓ 前回改訂時の構造化をさらに発展させ、記載の冗長さ・複雑さを改善しスリム化を図る。(令和7年9月 論点整理(案案)より)

POINT

内容を分かりやすくし、教師が「深い学び」を授業で具現化しやすくする

※以下「知・技」「思・判・表」とする。

表形式は、教科等の特性に基づき主に2つのパターンが想定されています。

- 並列パターン…「知・技」の内容のまとまりに対応した「思・判・表」を並列で示す(社会、算数・数学、理科など)
- 並行パターン…「思・判・表」の深まりを「知・技」が支えることを示す(国語、外国語など)

〈中学校社会科歴史的分野の例〉

現行学習指導要領

課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(7) 世界の動きと統一事業

ヨーロッパ人來航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や家臣などの生活文化の展開などを基に、近世社会の基礎がつけられたことを理解すること。

(4) 江戸幕府の成立と対外関係

江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解すること。

(9) 産業の発達と町人文化

産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解すること。

(2) 幕府の政治の展開

社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(7) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化などに着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特徴を大観して表現すること。

ア の(7)から(2)までについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

(4) 近世の日本を大観し、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

思・判・表

中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編 P.209【改】

新学習指導要領(案)

並列パターン

	知識及び技能に関する統合的な理解	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮
	○ヨーロッパ勢力との接触や列島周辺地域との関係を背景に、幕府と藩による支配体制が確立され、様々な秩序が身分制の下で形成されるとともに、生産力の向上や国内外の情勢変化などによって、幕府の政治や社会が変化し、続けたことについて理解する。	○時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特徴を大観して表現すること。
(7) 世界の動きと統一事業	・次の①から③などを題材に、近世社会の基礎がつけられたことを理解する。 ①ヨーロッパ人來航の背景とその影響 ②織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係 ③武将や家臣などの生活文化の展開	(7) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、文化の担い手の変化などに着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特徴を大観して表現すること。
(4) 江戸幕府の成立と対外関係	・次の①から③などを題材に、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。 ①江戸幕府の成立と大名統制 ②身分制と農村の様子 ③鎖国などの幕府の対外政策と対外関係	(4) 幕府の政策の目的と社会の変化などに着目して、幕府と藩の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現すること。
(9) 産業の発達と町人文化	・次の①から③などを題材に、都市における町人文化や各地方の生活文化が生まれるとともに、幕府の政治が社会の変化へ対応していったことを理解する。 ①産業や交通の発達と教育や文化の広がり ②社会の変動や欧米諸国の接近 ③幕府の政治改革 ④新しい学問・思想の動き	(9) 産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化に着目して、幕府と藩の成立と対外関係について、多面的・多角的に考察し、表現すること。
(2) 幕府の政治の展開		(2) 上の(7)から(9)を踏まえて、時期や年代、展開や変化、共通点や相違点、背景や原因、結果や影響などの視点に着目して、近世の日本について多面的・多角的に考察し、中世との比較などから時代の特徴を大観して表現すること。

教育課程部会 社会・地理歴史・公民ワーキング(第9回)配布資料より

2026 年中央教育審議会での その他の審議内容

TOPIC 1

個々の教師のニーズに応え使
いやすくする
「デジタル学習指導要領」

- ・情報の検索性向上
- ・他教科・他校種との関連性の俯瞰
- ・生成 AI を活用した指導案・評価計画作成支援
- ・デジタル教科書や外部教材へのアクセス

などを備えた、新たな基盤とする方向性で整理されています。

TOPIC 2

教育課程の柔軟性向上のための
「調整授業時数制度」
(義務教育段階)

各教科の標準時間数を調整することで生み出された授業時数(調整授業時数)を活用して、既存教科等への上乗せ・教科新設・裁量的な時間(学習枠、研究・研修等枠)への活用などができる案が検討されています。

学習指導要領改訂に関するスケジュール

学習指導要領は、改訂、周知、実施という流れで段階的に進められます。

- 令和 8 年度に中央教育審議会の答申
- 小学校は、令和 8 年度改訂、令和 12 (2030) 年度より全面実施予定
- 中学校は、令和 8 年度改訂、令和 13 (2031) 年度より全面実施予定
- 高等学校は、令和 9 年度改訂、令和 14 年度入学生から順次実施予定

	令和 8 年度 (2026)	9 年度 (2027)	10 年度 (2028)	11 年度 (2029)	12 年度 (2030)	13 年度 (2031)	14 年度 (2032)	15 年度 (2033)	16 年度 (2034)	17 年度 (2035)	18 年度 (2036)	19 年度 (2037)	
幼稚園等	教育課程部会 審議まとめ (夏頃予定) ※1	中央教育審議会 答申(冬頃予定) 改訂 (年度未予定) ※1	周知	令和 10 年度～全面実施									
小学校			周知	先行実施 ※2		令和 12 年度～全面実施							
			▼教科書 著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集	検定	採択・供給
中学校			周知	先行実施 ※2		令和 13 年度～全面実施							
			▼教科書 著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集	検定	
高等学校		改訂 (年度未予定) ※1	周知	先行実施 ※2		令和 14 年度～ 入学生から順次実施		令和 16 年度～全面実施					
			▼教科書 著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集	検定	採択・供給	使用開始	著作・編集		

※ 教育課程部会 総則・評価特別部会(第 10 回)配布資料をもとに作成。

※1 審議まとめ及び告示案については、パブリック・コメントを実施予定

※2 移行期間中の先行実施の具体的な時期や実施する内容については随時検討

※3 特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)については幼稚園・小学校・中学校と同様、特別支援学校学習指導要領(高等部)については、高等学校と同様のスケジュールを想定

NO. 2 は 11 月中旬
ごろ発信予定

